



ISSN 1344-7572

研究報告集録 第130-02

**各教科・領域における防災教育の推進に  
資する教員用指導書の作成に向けた  
調査・研究**

平成27年3月  
大阪府教育センター

各教科・領域における防災教育の推進に資する  
教員用指導書の作成に向けた調査・研究

< 目次 >

	ページ
I 研究について	1
II 学校における防災教育の手引き(改訂版)の作成 — 平成25年度の成果 —	2
1 主な内容	
2 作成した授業案等	
III 実践協力校の取組 — 平成26年度の実践 —	3
吹田市立吹田南小学校 「まちたんけん」	3
柏原市立玉手中学校 「どうする? 災害時の情報確保と連絡手段」	5
大阪府教育センター附属高等学校 「大阪の災害に学ぶ」	8
府立佐野支援学校中学部 「こんなとき どうする?」	10
府立中津支援学校小学部 「自分の身を守る」	12
府立中津支援学校中学部 「こんなとき どうする?」	15
府立中津支援学校高等部 「自分の身を守る」	18
IV 成果および今後に向けた取組	20

## I 研究について

### 1 研究目的

平成25年3月策定の大阪府教育振興基本計画「基本方針8 重点取組㊸」の中の「児童・生徒が自らの命を守り抜く力を高める取組の推進」において、実践的な避難訓練の実施や指導法・教材等の開発、「防災教育の手引き」の改訂など、防災教育の充実等により、災害時に「主体的に行動する態度」を育成するとともに、地域等と連携した防災体験活動等を推進し、児童・生徒が自らの命を守り抜く力を高める取組をすすめることが求められている。

大阪の地理・歴史的な実態を踏まえ、小・中・高等学校及び支援学校において、子どもたちが災害についての正しい知識と的確な判断力を身に付け、地域の特性に応じて適切に行動できるよう、各学校の指導に活用できる指導資料を作成・普及する。

### 2 研究仮説

地域の実態に基づく防災教育を通して、災害についての正しい知識を身に付けることで、災害時に自分だけではなく他者の命を守ることに向け主体的な判断が適切にできる能力が養われる。

### 3 研究方法

#### (1) 平成25年度

##### ① 資料収集及び指導資料の内容の方向性の決定

文部科学省が平成25年3月発刊の『「生きる力」をはぐくむ防災教育の展開』をはじめ、各都道府県教育委員会が作成している防災教育に係る指導資料等を収集した。また、各市教委及び高等学校・支援学校で実施されている防災教育についての実践事例を吸い上げ、内容を検討し、大阪の実態に合う指導資料の方向性を決定した。

##### ② 指導資料作成

小学校～高等学校ならびに支援学校小学部～高等部において、各教科・領域の学習指導要領から防災教育に関わる内容を抽出し整理することで、防災教育のねらいを明確にした防災教育指導計画を作成した。また、防災教育指導計画に基づき、学習指導案とともに、各地域や学校ですぐに活用できる教材集を作成した。

これらの成果として「大阪府における学校防災の手引き(改訂版)～大阪の子どもたちを災害から守るために～」(平成26年3月)を保健体育課と協働して作成した。

#### (2) 平成26年度

##### ① 「大阪府における学校防災の手引き(改訂版)」の周知

平成26年度にセンターで実施した防災教育研修、初任者研修、10年経験者研修等において冊子の内容を紹介し、周知を図った。

##### ② 実践協力校による授業実践、及び内容の再精査

吹田市立吹田南小学校、柏原市立玉手中学校、大阪府教育センター附属高等学校、府立佐野支援学校(中学部)、府立中津支援学校(小学部、中学部、高等部)に実践協力校を委嘱した。これらの学校には、「大阪府における学校防災の手引き(改訂版)」に基づいた授業展開、授業の取材、事後アンケートによる効果測定をお願いした。

### ③ 府内の学校への防災教育のさらなる推進・普及

今年度の研究協力校の取組については、平成26年4月に新設された府教育センターのWebページ「防災教育のページ」のコンテンツとしてWebアップし、広く成果を普及・発信していく。コンテンツとしては、授業中の動画に限らず、ワークシートのスライドショーや担当者のインタビュー等も取り入れた内容とする。

## II 学校における防災教育の手引き(改訂版)の作成 — 平成25年度の成果 —

### 1 主な内容

全体の構成としては、冒頭の大阪府内における地震・津波被害の紹介をうけて、「災害安全の構造と学校防災」「学校における防災教育」「学校における防災管理」「各教科等における防災教育の展開」と章が続く。巻末資料として、「地震に関するQ&A」をはじめ「防災に役立つ情報」や「防災教育に関する参考資料」も掲載されている。

これらのうち「各教科等における防災教育の展開」においては、府教育センターの指導主事が各教科等における指導例を執筆分担し、小・中・高・支援学校の校種ごとの「防災教育 年間指導計画例」や、教科等における防災学習の「授業展開例」を具体的に示した。

### 2 作成した授業案等

#### (1) 年間指導計画

小学校については第1・2学年、第3・4学年、第5・6学年に、中学校と高等学校については各学年の年間指導計画を作成した。また、支援学校については小学部、中学部、高等部の年間指導計画を作成した。

#### (2) 小学校

展開例として「まちたんけん」(1年及び2年 生活科)、「大和川のつけかえ」(4年 社会科)、「突然、大雨にあったらどうする?」(5年 理科)の3例を示した。また、実践例として東大阪市立縄手東小学校の第6学年の「総合的な学習の時間、特別活動」における防災教育の工夫を紹介した。

#### (3) 中学校

展開例として「どうする? 災害時の情報確保と連絡手段」(全学年対象特別活動)、「自然災害」(3年 理科)、「避難と避難後の行動を考える」(3年 特別活動)の3例を示した。

#### (4) 高等学校

展開例として「安心・安全な居住環境や住環境とは」(家庭総合)、「大阪の災害に学ぶ」(1年地学基礎)、「古文に残された災害の記録から防災について考える」(古典A)、「災害等における「応急手当」の実践と防災について考える」(保健)の4例を示した。

#### (5) 支援学校

展開例として「自分の身を守る」(小学部 生活・自立活動)、「こんなとき どうする?」(中学部 特別活動・自立活動)、「避難訓練の事後学習—防災食について考える—」(高等部 特別活動 ホームルーム活動)の3例を示した。

Ⅲ 実践協力校の取組 — 平成26年度の実践 —

吹田市立吹田南小学校 実践例 (学校における防災教育の手引き 小学校展開例アより)

まちたんけん —安全マップを作ろう！—

1 教科等名 生活科(2年)・特別活動

(学習指導要領との関連) 内容(3)地域と生活、(4)公共物や公共施設の利用

- 2 ねらい (1)自分たちの住む地域に関心を持ち、安全に生活する為の工夫があることが分かり、安全に生活することができるようにする。  
(2)安全を守っている施設や人々に気づき、災害時の安全な行動について考える。

3 指導計画 (10時間 展開例9/10)

- (1)阪神淡路大震災を経験した先生の話聞き、災害について考える。(特別活動1時間)  
(2)学校のまわりや自分たちが住む地域の安全を守る工夫について調べ、まちたんけん安全マップを作ることを知り、学習の計画を立てる。(1時間)  
(3)通学路の様子、標識、公共物、公共施設、そこに関わる人たちなどの安全を守っている工夫について町たんけんを探す。(2時間)  
(4)まちたんけん安全マップを作る。(4時間)  
(5)まちたんけん安全マップの発表会をする。(1時間)  
(6)発表会で気付いたこと、知らせたいことを3年生に伝える。(1時間)

4 展開

学習内容・活動	教職員の支援	資料
1. 本時のめあてと学習内容を知る。	○本時の学習内容を知り、めあてを持って意欲的に活動できるようにさせる。	
<b>まちたんけんで見つけたいろいろな安全の工夫について発表しよう。</b>		
2. まちたんけんをして見つけた安全を守る工夫を発表する。	○発表の順番は事前に決めておく。 ○自分のグループで見つけたものと比べながら聞くように伝える。	・安全マップ 赤・・・防災 青・・・防犯 黄・・・交通安全 に色分けしている。
3. 安全マップの発表を聞いて思った	○まずペアで交流させ、全体	

こと、気付いたことを交流する。  ・初めて知ったこと ・驚いたこと ・自分のグループと同じこと ・自分のグループと違うこと	で発表させる。	
4. 3年生に知らせたいことを書く。	○話し合ったことや気付いたことを書かせる。	・手紙形式のワークシート

## 5 評価

- ・通学路や地域の安全・危険について関心を持ち、「安全マップ」を作るため進んで見たり聞いたりしようとしている。  
(生活への関心・意欲・態度)
- ・地域の人々や様々な場所と関わり、安全について気付いたことを絵や文で表現することができる。  
(活動や体験についての思考・表現)
- ・地域の人々に見守られながら、安全に気を付けて暮らすことの大切さに気付いている。  
(身近な環境や自分についての気付き)

## 6 その他

- ・子どもたちのアンケートより

### (1) 授業後の意識

アンケート項目	「はい」と答えた児童の割合	「いいえ」と答えた児童の割合
学校のまわりを見学して、安全を守るくふうを、見つけることができましたか。	96%	4%
見つけたことや調べたことを、安全マップにまとめ、いろいろな安全を守るくふうがあることに気づきましたか。	94%	6%
学習した内容は、今後、役に立つと思いますか。	93%	7%
学習をする前に比べて「地震や火事がおきたときに自分ができること」を考えるようになりましたか。	88%	12%
学習をする前に比べて、お家の人と「地震や火事がおきたときのことについて話をするようになりましたか。	50%	50%

### (2) 授業後の主な感想

- ・町たんけんに行ってから、子ども110番をいっぱい見るようになりました。
- ・じどうはんばいきの下が、地しんが来たときに、たおれないように、ねじでとめてあることを、はじめて知りました。これからも安全のくふうをいろいろ知っていきたいと思います。
- ・自分がまわっていないところを調べたグループの発表を聞いて、自分の近所に安全のくふうがいっぱいあることを知りました。

## どうする？ 災害時の情報確保と連絡手段

- 1 教科等名 特別活動 (全学年対象)  
(学習指導要領との関連) 特別活動 学校行事 (3)健康安全・体育的行事
- 2 ねらい
  - (1) 校区内で起こりうる自然災害について調べ、非常時における対処の方法を考える。
  - (2) 災害時にどのようにして正しい情報を入手し、混乱した状況の中で連絡手段などをどのように確保するかを考える。
- 3 指導計画 (3時間 展開例 1 及び 2/3)
  - (1) 玉手中学校校区の危険地域について調べ、身近に起こりうる災害について、起こりうる事態とその対処を考える。(1時間)
  - (2) 災害時には正確な情報を得ることが重要なことや、災害時には使えなくなる情報を得る手段について交流し、災害時にどうやって家族と連絡を取ればよいかを考える。(1時間)
  - (3) 防災(避難)訓練(1時間)
- 4 展開 (1時間目及び2時間目)

学習内容・活動	教職員の支援	資料
【1時間目】		
1. 玉手中学校校区の危険地域について理解する。	○「柏原市ハザードマップ」を班に配付する。 ・自分の家に印を付けさせる。 ・「地すべり危険地域」を赤で塗らせる。 ・「浸水実績区域」を青で塗らせる。	柏原市ハザードマップ
2. 校区地図やハザードマップを見て考えたことを発表する。	○柏原市全体を見渡して、あちらこちらに危険区域があること、また、校区の6割以上が危険区域にある状況を認識させ、危険が身近なものであることを理解させる。	校区地図
3. 身近に起こりうる災害について、起こりうる事態とその対処を考える。	A：地震で起こりうる危険 ・家屋の倒壊・地滑り・火事・停電・断水・交通機関の麻痺 B：豪雨で起こりうる危険 ・浸水(床下・床上)・大和川の氾濫・地すべり・交通機関の麻痺(ゲリラ豪雨の場合)マンホールからの噴水・低地の冠水 C：台風で起こりうる危険 ・家屋の破損・落下物や吹き飛ばされた物・停電・交通機関の麻痺	

<p>4. 非常時の備えについて考える。</p>	<p>○一般的な非常持ち出し袋に入っているものを黒板に掲示する。  ○その中で特に重要と思うものを各班で話し合わせ、3つ選ばせる。  ○各班で選んだものを、理由を含めて発表させる。  ○下記の備えは被災時に有効性が高い。生徒から意見として出なかった場合は補足する。  ・靴（がれきが散乱していると避難できない）  ・ヘッドライト（懐中電灯を持ってない状況にも対応できる）  ・防寒シート（体温調節に有効）  ・ホイッスル（大声を出すより体力面や有効性で優れる）</p>	
<p>5. 班から出た意見をまとめ学習を振り返る。</p>	<p>○班で話し合わせ、意見を板書しまとめる。</p>	
<p>【2時間目】</p>		
<p>1. 前時の学習を振り返る。</p>	<p>○前時で調べたことを振り返り、本時の課題を明確にする。</p>	
<p>2. 日常生活で、何から情報を得ているかをワークシートに書く。</p>	<p>○災害時には正確な情報を得ることが重要なことを理解させる。  ○意見を発表させ、黒板に板書しまとめる。</p>	<p>ワークシート</p>
<p>3. 情報を得る手段として、災害時に使えなくなる可能性のあるものを発表させる。</p>	<p>○黒板に書いてあるもののうち、使用できなくなるものを消す。  ○携帯電話は充電切れや破損で使えなくなることを補足する。</p>	
<p>4. 災害が発生し、停電が起こった状態を説明する。</p>		
<p>地震（震度7：東日本大震災の地震の震度）  14時46分。家族は外出中。家で一人で留守番をしていたときに地震が発生。揺れている間は立っていることができず、固定していない家具のほとんどが倒れた。自宅は大きな被害がなかったが、家の中は家具が倒れ、壊れたものが床に落ちている。電気・水道・ガスは停止している想定。</p>		
<p>5. 災害時にどうやって情報を入手するのかを考える。</p>	<p>○聞いた話を鵜呑みにするのではなく、自分で判断して行動することの大切さに気付かせる。  ○客観的な情報を得ることの大切さに気付かせる。</p>	

<p>6. 災害時にどうやって家族と連絡を取ればよいか考え、学習をまとめる。</p>	<p>○班で話し合わせ、意見を板書しまとめる。 ○日頃から家族や知り合いなどの間で、災害時に集まる場所や連絡方法について話し合うことの大切さに気付かせる。 ○災害用伝言ダイヤル等のサービスも紹介する。</p>	
--	--	--

## 5 評価

- ・校区の危険地域について調べ、身近に起こりうる災害について、起こりうる事態とその対処を考えている。
- ・災害時の連絡手段や情報確保の方法について考えている。

## 6 その他

- ・子どもたちのアンケートより  
(1) 授業後の意識

アンケート項目	とてもそう思う	まあまあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
校区内で起こりうる自然災害や、その対処の方法について考えられましたか。	46%	50%	3%	1%
災害時の正しい情報の入手方法や連絡手段について考えられましたか。	54%	41%	4%	1%
班や学級全体で考えたり、話し合ったりして自然災害について学びましたか。	47%	44%	8%	1%
学習した内容は今後役に立つと思いますか。	75%	21%	3%	1%
災害が起きた時に自分には何ができるかを、学習前に比べて考えるようになりましたか。	46%	47%	6%	2%

### (2) 授業後の主な感想

- ・2日間防災教育の授業を受けて、いろいろなことを学べて良かったです。また、災害のことを考えるきっかけとなったので良かったです。
- ・改めて、自分が何をすればいいのかがわかりました。そして、大きな災害が起こったときは、落ち着いて行動したいと思いました。
- ・災害はどれだけ怖いものか分かっていただけれど、これからはもっと真剣に考えてみようかなと思いました。この学習をいかせたらと思いました。

## 大阪の災害に学ぶ

### 1 教科名等 3年次理科 「理科総合演習」(理科学校設定科目)

- ・教科書 東京書籍「科学と人間生活」
- ・副教材 東京書籍「ニューサポート 科学と人間生活」

### 2 ねらい

- (1) 過去の南海トラフ地震における大阪での地震と津波の被害の実態を学習することにより、近い将来に発生が予想される南海トラフ地震・津波の被害を減らすためにどのような準備をし、地震発生時に被害を最小限に食い止めるためにどのような行動をとればよいかを学ぶ。
- (2) 江戸時代の大坂三郷の絵図と現代の大阪市街地図を比較することにより、大阪市街の地形の特徴と歴史的な地形や都市環境の変容について学ぶ。
- (3) 班ごとに調査結果をもとに考察を行って発表することにより、科学的な考察に基づく思考力、表現力やプレゼンテーション能力を身につける。

### 3 指導計画(7時間)

- (1) 「プレートの運動と地震」「地震・津波による災害」について事前学習をする。(1時間)
- (2) 「大地震両川口津浪記石碑」について、動画や当時の記録文書をもとに安政南海地震の津波被害の様子をグループでまとめ、碑文を読んだ感想を記入する。(2時間)  
【教材】・動画「歴史は眠らない～大正橋津浪記念碑～」
  - ・「大地震両川口津浪記(原文・現代語訳版)」
  - ・「防災教育ワークシート①、②」(「大地震両川口津浪記」の碑文に学ぶ津波への備え)
- (3) 当時の地図と現代の地図を貼り合わせ、河川や運河などの地形や町の様子の変化とともに安政南海地震の浸水域も記入し、グループで考察を深める。(3時間)  
【教材】・「摂州大阪全図」(天保八年(1837年)浪華書林播磨屋九兵衛版)  
(以下のURLの地図(A4版縦置き横6×縦3枚)をA3版横置き横2枚×縦3枚に編集) <http://onjweb.com/netbakumaz/oosakamap/oosakamap.html>
  - ・国土地理院1万分の1地形図「西九条」、「大阪城」、「大正」、「天王寺」(上記の4枚をA3版横置き横2枚×縦3枚に編集)
  - ・地図用付箋
- (4) 次に南海地震がおこると考えられる時期を予測し、今後南海地震が発生した際に命を守るためにどのような行動をとればよいか、また南海地震の発生に備えて地域や家庭でどのような備えをすればよいかについて考察したことをグループで発表する。(1時間)  
【教材】・「防災教育班別発表用シート」
  - ・「防災教育(自己評価シート)」

#### 4 展開（7時間目）

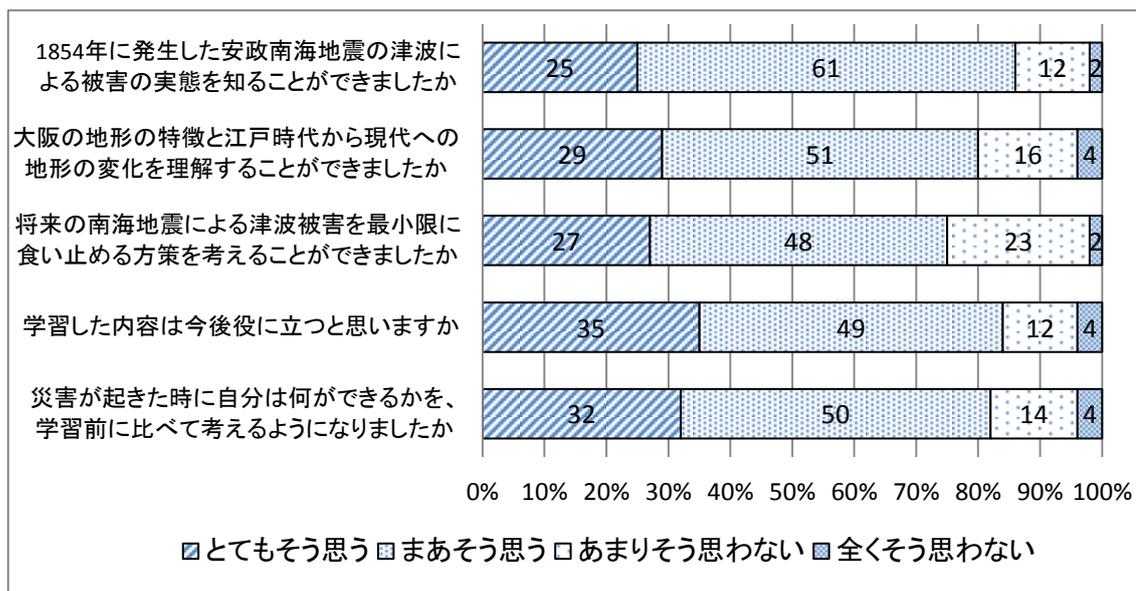
学習内容・活動	教職員の支援	資料
1. 次に南海地震が起きる時期を予測する。	○過去のデータを示しながら思考を促す。	
2. 「地震が起こったらどうするか」「地震に向けてどんな備えをするか」について考え、発表する。	○個人で意見をまとめたうえで、グループで意見をまとめさせる。 ○班別作業用シートを書画カメラで示しながら発表させる。	・「防災教育班別発表用シート」
3. 自己評価シートを記入する。	○単元全体の振り返りを行うことで、授業のねらいを再確認する。	・「防災教育（自己評価シート）」

#### 5 評価

- (1) 1854年に発生した安政南海地震の津波による被害の実態を知ることができたか。
- (2) 大阪の地形の特徴と江戸時代から現代への地形の変化を理解することができたか。
- (3) 将来の南海地震による津波被害を最小限に食い止める方策を考えることができたか。

#### 6 事後アンケート結果

##### ① 質問項目と評価



##### ② 感想欄から

- ・今と昔では町の形や川の形も違うから被害が大きくなったんだなと思った。今、災害が起きたら何ができるかを少し考えるようになった。
- ・この学習をする前と後では、災害に対する考え方が変わった。どうすれば被害を最小限にできるかなどを学べた。
- ・過去の知識を活かすことができれば、減災につながると思う。
- ・他人事ではないと感じました。
- ・これから起こりうる地震にしっかりと冷静な判断ができるようにこの知識を活かしたい。

## こんなとき どうする？

### 1 教科名等 特別活動・自立活動

(学習指導要領との関連)

○自立活動のねらい

2 心理的な安定 (2) 状況の理解と変化への対応に関すること。

6 コミュニケーション (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。

- 2 ねらい (1) 大規模災害の発生時には具体的にどのようなになるのか状況を知る。  
 (2) 大規模災害の発生時でもパニックにならずに落ち着いて過ごせるようになる。  
 (3) 周りの状況を把握する力をつける。

### 3 指導計画 (3時間 本時2/3 平成26年12月18日 13:10~14:10)

- (1) 地震の時の行動の約束を考える。  
 (2) 状況に応じた行動や人に伝えることばをロールプレイを通して学ぶ。  
 (3) 「こんなときどうする」の振り返りをする。

### 4 展開

学習内容・活動	教職員の支援	資料及び準備物
1. クラスごとに集合、はじまりの挨拶をする。	○授業の始まりを意識させる。	大型テレビ パソコン
2. 本時の予定を知る。	○授業に見通しをもたせる。	
3. 前回の授業内容を復習する。 ◇大震災が起きたときにどうなるか。 ◇「おはしも」	○興味をもてるように問いかけた りする。 ○地震のときの写真やビデオは生徒の様子をみて、刺激になりすぎないように内容や量を調整する。	
4. こんなときどうする？ 各クラスで円になって考え、画用紙にかく。 ◇教室で地震が起こった場合 ◇廊下で地震が起こった場合 ◇トイレで地震が起こった場合	○イメージがつかないときはヒントを出す。	画用紙 マジック

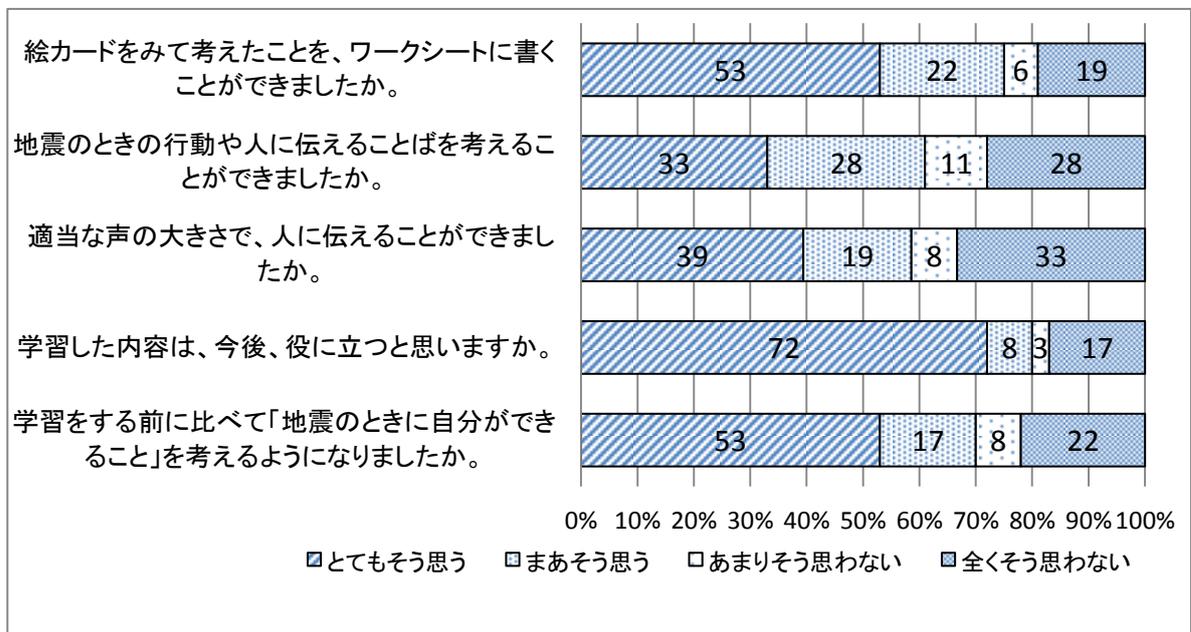
<p>5. ロールプレイ 1つの問いに対して1クラス発表する。クラスの代表として学級委員が発表する。</p> <p>◇教室で地震が起こった場合 ◇廊下で地震が起こった場合 ◇トイレで地震が起こった場合</p> <p>6. まとめ</p> <p>7. 終わりの挨拶</p>	<p>○効果音などを使って状況をイメージしやすくする。</p>	<p>机 廊下の壁 トイレ模型 効果音 デッキ</p>
---	---------------------------------	---

## 5 評価

- ・状況に応じた行動や人に伝えることばを考えることができる。
- ・状況に応じた声の大きさを伝えることができる。

## 6 その他

- ・子どもたちのアンケートより  
(1) 授業後の意識



### (2) 授業後の主な感想

- ・いっぱい考えた。
- ・勉強にもなったし、いざというときに役に立つと、ぼくは思う。
- ・先生のお手本を見て、なるほどと思いました。
- ・地震のゆれることを体験したのが楽しかった。

## 自分の身を守る

### 1 教科名等 特別活動・自立活動

(学習指導要領との関連)

○自立活動のねらい

- 3 人間関係の形成 (3) 自己の理解と行動の調整に関すること。
- 5 身体の動き (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。

- 2 ねらい (1) 地震のゆれによる身の回りの変化や、地震のときに起きる災害の危険について理解できるようになる。
- (2) 自分の命を守るための方法について理解し、安全に行動しようとする態度を育てる。大規模災害の発生時には具体的にどのようなようになるのか状況を知る。

### 3 指導計画 (4時間 本時1/4 平成26年10月10日9:30~9:55)

- (1) 大きい地震の災害や災害から身を守る方法を学ぶ。(本時)
- (2) 学校の中で地震が起きたときの初期行動と避難行動を学ぶ。
- (3) 「授業中に地震発生、津波発生の可能性あり」の想定で避難訓練をする。
- (4) 体験学習行事で津波・高潮ステーションを見学する。

### 4 展開

学習内容・活動	教職員の支援	資料及び準備物
<p>1. はじまりのあいさつをする。</p> <p>2. 大きな地震が起きた時、どのように身を守ればよいかについて学習することを知る。</p> <p>◇わたしたちのまちで大きな地震が起こった時について考えてみましょう。</p>	<p>○はじまりを意識させる。</p> <p>○今までの地震の体験や情報で知っていること、これまでの学習で学んだこと(机や防災頭巾で身を守る、「お・は・し・も」のルールを守り、教師の指示に従って落ち着いて行動する。)について思い出させ、話し合わせる。</p> <p>○障がいのため、自身で避難移動が困難なこと等を配慮して、教師をはじめ、周囲の人たちがみんなの安全を守ることを伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全学習絵カード</li> <li>・机</li> <li>・防災頭巾</li> <li>・「地震って何？」(地震の簡単な説明プリント)</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">災害から自分の身を守ろう</div>		

<p>3. 大きな地震が起こったらどのような状況になるか。どのような危険があるか、考える。 ◇映像や写真を見て、大きな地震が発生すると学校やまちはどうなるのか、考えましょう。（ゆれる・物の落下・建物損壊・火災・津波）</p>	<p>○映像や写真を見せながら簡単な説明を加え、見終わったら、まとめる。 ○実際にあった地震の大きさ（マグネチュード、震度、津波の高さ等）も知らせる。</p>	<p>・ゆれる、物の落下、建物損壊、火災、津波」の絵カード</p>
<p>4. 学校にいるとき、大きい地震が起こったら、どのような状況になるか、どのような行動をとったらよいかを考える。 ◇学校（教室やホール）にいるとき、地震が起こったら、どんなところが危ないですか。 ◇大きな揺れがおさまりました。そのあとに、どんな危険があると思いますか。 ◇余震があって建物が壊れたり、火事や津波の心配もあります。そんなときは、どうしますか。 ・建物倒壊のない安全な場所に避難 ・高い場所に避難</p>	<p>○状況や場所を具体的に示して想像させる。 ・けがをしないために、あわてて行動しない・危険なものから離れる・防災頭巾で頭を守る・机の下にもぐることも気付く支援をする。 ・公園や淀川があること気付かせ、落ち着いて指示に従い、一次避難場所（中庭）、高い所への避難（3階多目的ホール）を知らせる。</p>	<p>・地震の安全学習絵カード （物が落ちてこない・倒れない・移動してこない場所に身を寄せる、頭を守る。「お・は・し・も」の約束を守って移動避難）</p>
<p>5. 学んだことをふりかえる。 ・地震が起きたらどんな危険があるか。（大きい揺れ・物の落下・建物の損壊・火災・津波） ・どのように身を守ればよいか。（安全な場所に身を寄せる。教師の指示に従って避難する。）</p>	<p>○まず自分の命を守る行動が大切であることを理解させる。 ○地震のときの避難の約束を確認する。 ○次の授業で学ぶことを伝える。（行動、避難経路、避難場所の確認、実際に身を守る行動をする。）</p>	<p>・「ゆれる、物の落下、建物損壊、火災、津波」の絵カード</p>

6. おわりのあいさつをする。	○おわりを意識させる。	
-----------------	-------------	--

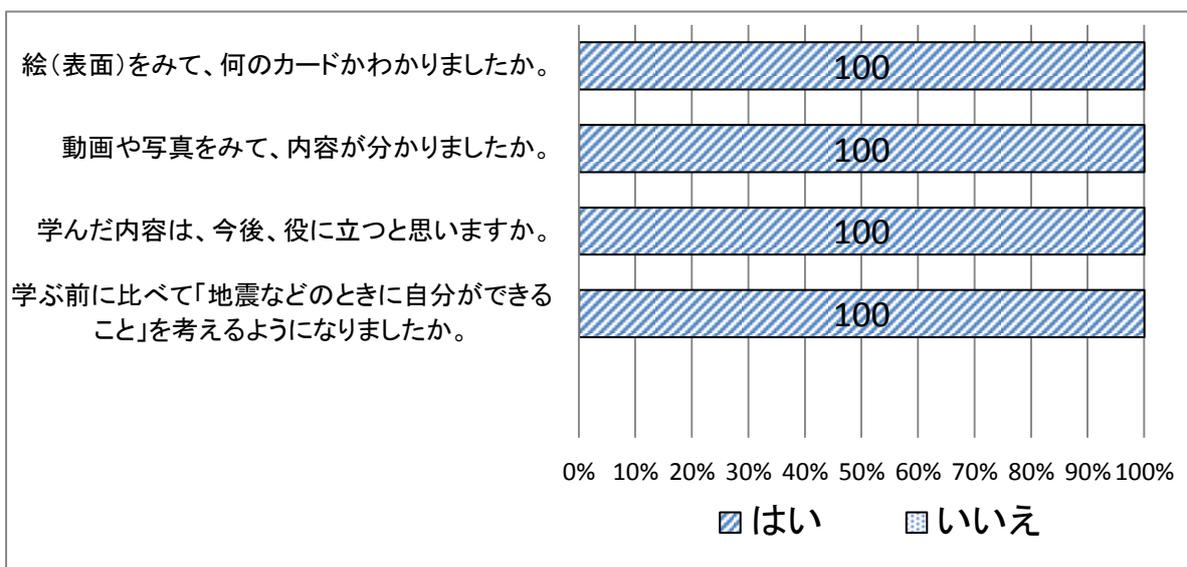
5 評価

- ・状況に応じた行動や人に伝えることばを考えることができる。
- ・状況に応じた声の大きさを伝えることができる。

6 その他

- ・子どもたちのアンケートより

(1) 授業後の意識



(2) 授業後の主な感想

- ・じしんこわかった。
- ・よくわかった。
- ・つなみをみてときどきしました。

## こんなとき どうする？

### 1 教科名等 特別活動・自立活動

(学習指導要領との関連)

○自立活動のねらい

- 2 心理的な安定 (2) 状況の理解と変化への対応に関すること。
- 6 コミュニケーション (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。

- 2 ねらい (1) 周囲の状況を把握できる基礎的な態度を養う。  
 (2) 急な状況の変化などに対応できる力を身につける。

### 3 指導計画 (3時間 本時2/3 平成26年10月17日 14:15~14:55)

- (1) 津波や災害のアニメDVDを見て、地震や津波の時の行動の約束を考える。
- (2) 状況に応じた行動や人に伝えることばを「ぼうさいダック」やロールプレイを通して学ぶ。
- (3) 「こんなときどうする」の振り返りをする。

### 4 展開

学習内容・活動	教職員の支援	資料及び準備物
1. はじまりのあいさつをする。 2. 今日のねらいを知る。	○はじまりを意識させる。 ○前回の授業で学んだことを写真等を使って思いださせる。 ○今日の学習の流れをカードで提示し、見通しを持って学習できるようにする。	・大型テレビDVDのセット ・地震時の写真等 ・授業の流れを記したカード
<b>「こんなときはどうするか。考えよう、やってみよう」</b>		
3. ロールプレイをする。 ◇教室での授業中に地震が起きたらどうする？ ◇運動場で遊んでいる時に地震が来たらどうする？ ◇移動中に友だちや先生と離れてしまったらどうする？	○サブティーチャーによるロールプレイ ◇机の下に頭を入れたり、防災頭巾をかぶる。 ◇頭を守ってしゃがむ、揺れがおさまるまで動かない。 ◇周りを見渡す。声をあげて呼ぶ。叫ぶ。	・防災頭巾、座布団クッション、机 ・絵カード「ぼうさいダック」

<p>生徒によるロールプレイ</p>	<p>○絵カード「ぼうさいダック」を提示し、 の状況に応じた行動や人に伝えることばを演じさせる。 ○人に伝える時の声の大きさに気をつけさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 防災頭巾、座布団クッション、机（おもちゃなど無関係な物も置く）</li> <li>• 声の大きさカード（ご褒美メダル）</li> </ul>
<p>絵カード「ぼうさいダック」を使ってゲームをする。 ○ゲームの説明を聞く。 ○ゲームをする。 ○カードを使って確認する。</p>	<p>○カードの表面を提示し、「〇〇の時はどうする」とことばをかけたら、身を守る行動をすることを伝える。 ○身を守る行動ができていない生徒がいる時は、もう一度カードを使って確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 絵カード「ぼうさいダック」 地震、津波、火事</li> </ul>
<p>4. 今日学んだことを振り返る。 地震津波避難訓練についての予定を知る。</p>	<p>○本日の学習が避難訓練の時に生かせるようにと伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地震・津波発生時のマニュアル（生徒用）</li> </ul>
<p>5. おわりのあいさつをする。</p>	<p>○おわりを意識させる。</p>	

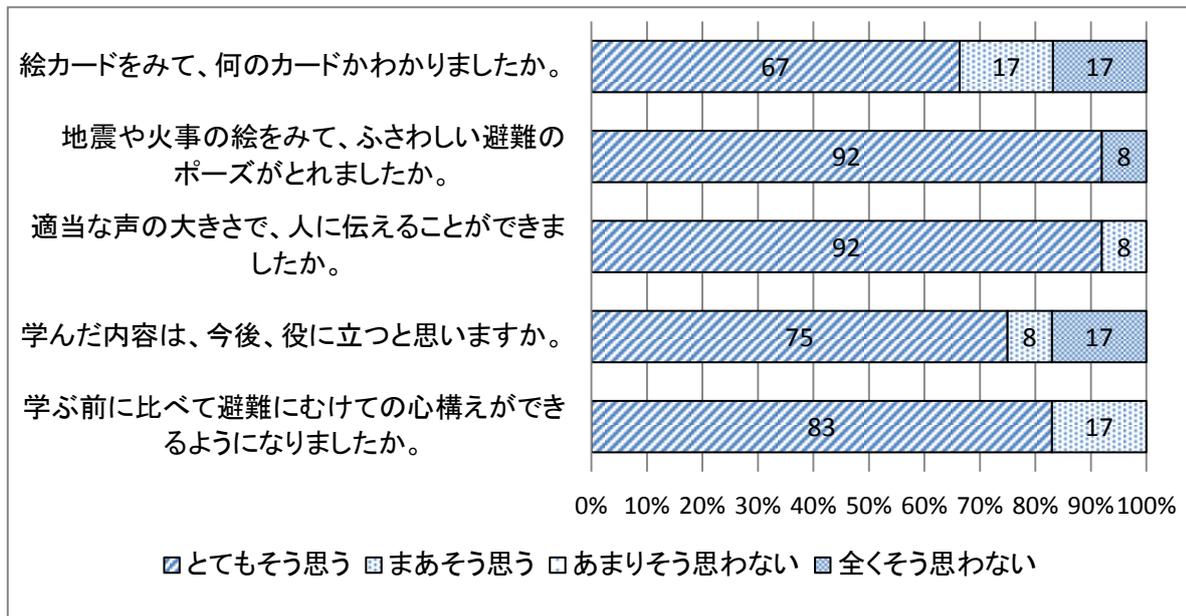
## 5 評価

- 状況に応じた行動や人に伝えることばを考えることができる。
- 状況に応じた声の大きさに伝えることができる。

## 6 その他

### ・子どもたちのアンケートより

#### (1) 授業後の意識



#### (2) 授業後の主な感想

- ・よくわかりました。
- ・おもしろかった。

## 自分の身を守る

### 1 教科名等 保健体育

(学習指導要領との関連)

○保健のねらい

(2) 生涯を通じる健康 ア 生涯の各段階における健康

○自立活動のねらい

2 心理的な安定 (2) 状況の理解と変化への対応に関すること。

3 人間関係の形成 (3) 自己の理解と行動の調整に関すること。

2 ねらい (1) 周囲の状況を把握できる基礎的な態度を養う。

3 指導計画 (3時間 本時3/3 平成27年1月22日 13:20~14:10)

(1) 周囲の状況を把握できる基礎的な態度を養う。

(2) 本校避難マニュアルに沿った避難訓練を行う。

(3) 災害や日常の中で人の役に立つ行動をとる。

### 4 展開

学習内容・活動	教職員の支援	資料及び準備物
1. はじまりのあいさつをする。	○はじまりを意識するよう支援する。	
2. 今日のねらいを知る。	○前回の授業で学んだ、災害から守ってくれるものの名前を、画像等使って思い出すよう支援する。 ○本時の学習の流れを提示し、見通しを持って学習できるようにする。	・タブレット端末 ・テレビモニター ・ホワイトボード
3. 場面に応じた行動を学年ごとで考える。 ①やけどした人がいたとき ②地震で瓦礫の下敷きになった人がいたとき 等	○災害時に困った人がいた時、生徒はどのような支援ができるか聞く。	
4. 教師の演技を見て、ロールプレイを行う。	○ロールプレイの説明をする。 「△△の時はどうする」と言葉をかけ、行動を演じるよう伝える。 ○教師が困っている人の演技を行う。	・机 ・椅子 ・防災頭巾 等

<p>5. 今日学んだことを振り返る。</p> <p>6. おわりのあいさつをする。</p>	<p>○ロールプレイを行う生徒を選ぶ。</p> <p>○ロールプレイの様子を撮影する。</p> <p>○本時の様子を撮った画像を基に振り返る。</p> <p>○おわりを意識するよう支援する。</p>	
--	---	--

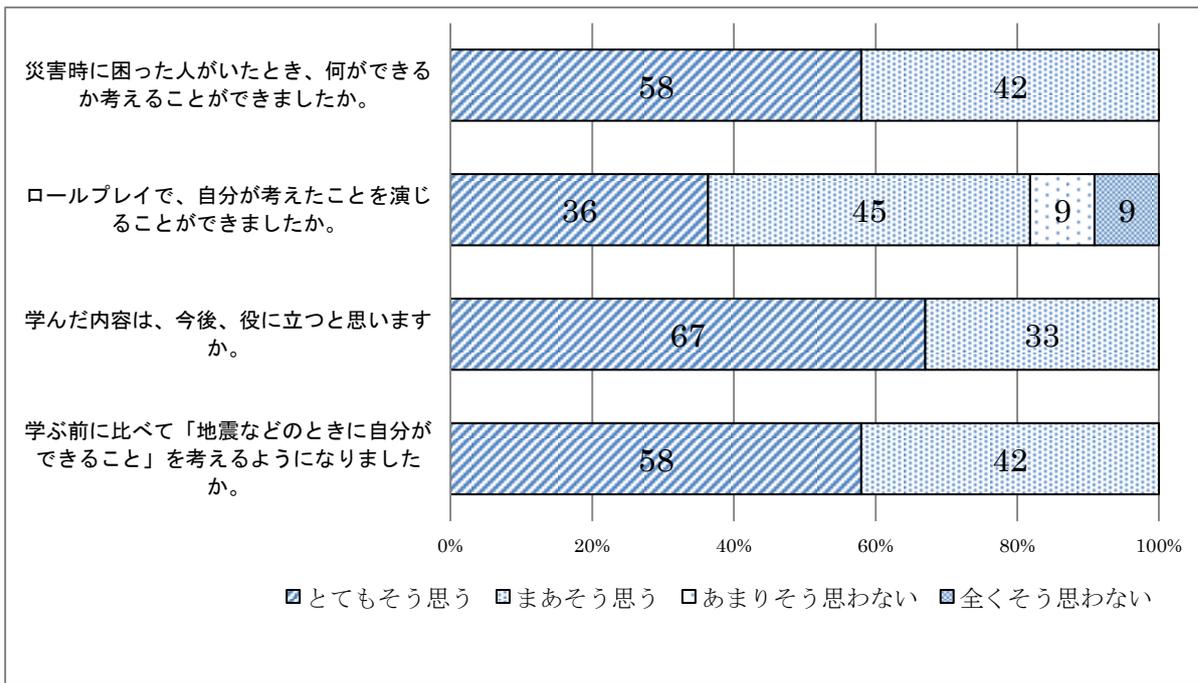
5 評価

- ・自らの意見を発言する。
- ・状況に応じた行動ができる。

6 その他

- ・子どもたちのアンケートより

(1) 授業後の意識



(2) 授業後の主な感想

- ・災害の授業は難しかったけど、勉強になった。
- ・自分ができる限りで、がんばって声をかけます。
- ・とても勉強になった。
- ・考えることができました。

## IV 成果および今後に向けた取組

2年間にわたる「生きる力」をはぐくむ防災教育指導資料作成及びカリキュラム開発の取組から、現段階における成果と今後に向けた取組について述べる。

### 1 成果

#### (1) 実践校の広がり

「大阪府における学校防災の手引き(改訂版)」をもとにした実践校として、吹田市立吹田南小学校、柏原市立玉手中学校、大阪府教育センター附属高等学校、府立佐野支援学校(中学部)、府立中津支援学校(小学部、中学部、高等部)で防災教育を実施した。実践内容と手引きの関連は以下のとおりである。

##### ① 吹田市立吹田南小学校

「まちたんけん」(小学校 展開例 ア)を活用し、「阪神淡路大震災を経験した先生の話」を聞き、「災害について考える」取組を単元の最初の時間に実施し、まとめとして「安全マップの発表会で気付いたこと、知らせたいことを3年生に伝える」取組を実践した。

##### ② 柏原市立玉手中学校

「どうする? 災害時の情報確保と連絡手段」(中学校 展開例 ア)を活用し、「中学校校区の危険地域について調べ、身近に起こりうる災害とその対処方法を考える」取組を前時に実施するとともに、単元のまとめとしての防災(避難)訓練の効果的な実施に向けた実践となった。

##### ③ 大阪府教育センター附属高等学校

「大阪の災害に学ぶ」(高等学校 展開例 イ)を活用し、江戸時代の絵図と現代の地図を比較して地形や都市環境について考察するとともに、「大地震両川口津波記石碑」を取り上げることで、南海地震に対する備えについてより身近に考察できるようにした。

##### ④ 府立佐野支援学校中学部

「こんなとき どうする?」(支援学校 展開例 イ 中学部)を活用し、状況をイメージしやすくするために効果音などを使うとともに、発表については、クラス単位で考え、画用紙に書いて発表するという方法をとった。

##### ⑤ 府立中津支援学校小学部

「自分の身を守る」(支援学校 展開例 ア 小学部)を活用し、学校の立地をふまえた指導を行い、避難訓練や体験学習行事(津波・高潮ステーションの見学)の実施につながる実践となった。

##### ⑥ 府立中津支援学校中学部

「こんなとき どうする?」(支援学校 展開例 イ 中学部)を活用し、ロールプレイ時に使用する絵カードとして「ぼうさいダック」を、声の大きさカードとして「ご褒美メダル」を使うといった工夫を伴った実践となった。

##### ⑦ 府立中津支援学校高等部

「自分の身を守る」(支援学校 展開例 ア 小学部)を高等部で実施すべく「災害や日常の中で人の役に立つ行動をとる」ことを指導内容に加える等のアレンジを施すとともに、振

り返りの際にロールプレイの様子を撮った画像を活用した。

## (2) アンケートによる効果検証

質問項目については、授業のめあてに即した内容3項目程度と防災教育のめあてに即した内容2項目の、計5項目程度にした。学校における防災教育は授業の中で行われているもので、防災教育の観点からだけでなく、その授業に該当する教科等の観点からも授業のめあてが存在することに考慮した結果である。

回答方法については、回答者におけるアンケート項目内容の理解度や回答方法の理解度等も考慮し、「はい」「いいえ」のどちらかに○印をつけるタイプと、「とてもそう思う」「まあまあそう思う」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」のどれかにマークするタイプの2種類の形式を作成した。

効果検証については、防災教育を実施すれば何らかの効果はあるはずなので、効果の有無でなく内容の妥当性という観点での検証となる。次年度に同様の防災教育を実施する際に、より効果的な防災教育を進められたかという観点での効果検証が求められる。

## (3) 教材の Web アップ

今年度の研究協力校の取組について、平成26年4月に新設された府教育センターのWebページ「防災教育のページ」のコンテンツを作成した。コンテンツとしては、授業中の動画に限らずワークシートのスライドショーや担当者のインタビュー等も取り入れた内容である。

## 2 今後に向けて

防災教育に関する情報の収集と発信に努める。研究協力校の取組以外でも、防災教育に関する取組について府教育センターのWebページにWebアップするなりリンクを貼るなどして、広く成果を普及・発信していく。また、教員のキャリアステージに応じて、10年経験者研修や管理職等研修などの研修の中で「大阪府における学校防災の手引き(改訂版)」の紹介など、防災教育に関する事項を取り上げ、教職員に対し防災教育の推進を働き掛けていく。

子どもたちが災害についての正しい知識と的確な判断力を身に付け、災害が発生したときに地域の特性に応じて適切に行動できるようになることを願っている。